

令和 7 年度 福岡女子商業高等学校事業計画書

1、施設の概要

学校名	所有区分	郵便番号	学校（会場）所在地	電話番号	F A X 番号
福岡女子商業高等学校	法人所有	811-1203	福岡県那珂川市片縄北 1 丁目 4 番 1 号	092-952-2231	092-952-5934

2、学生の概要

（1）設置課程・学科・収容定員・在籍者数一覧（令和 6 年度 3 月 10 日現在 1 年は見込数）

大学科	学年	学科	コース	定員	在籍数	収容（%）
商業	1 年	商業系	特進コース	70 名	75 名	107.1%
			商業コース	140 名	83 名	59.2%
			ビジネスビューティーコース	30 名	17 名	56.7%
	2 年	総合ビジネス科	特進コース	70 名	79 名	112.9%
			商業実践コース	100 名	30 名	30.0%
			ビジネスビューティーコース	30 名	33 名	110.0%
		情報ビジネス科	情報実践コース	40 名	64 名	160.0%
	3 年	総合ビジネス科	特進コース	70 名	78 名	111.4%
			商業実践コース	100 名	35 名	35.0%
			ビジネスビューティーコース	30 名	32 名	106.7%
		情報ビジネス科	情報実践コース	40 名	61 名	152.5%

(2) 令和7年度入学者予測数・令和6年度卒業生数・退学者数・除籍者数一覧

	入学者数	編入者数	卒業生数（終了者数含）	転学者数	除籍者数	増加予測
商業	175	0	161	12	3	97

3、教職員関係

(1) 令和7年度管理職の概要

職名	氏名	備考（新任・留任等）
学校長	柴山 翔太	留任
副校長	徳永 道昭	新任
総括教頭	澤井 慎治	留任
教頭	緒方 泰士	新任
事務長	徳永 道昭	留任

(2) 令和7年度教職員の概要

		合計（人）
教員	本務	40
	非常勤	9
職員	本務	2
	兼務	8

4、事業の概要

(1) 事業の概要

本校は町立から私立に移管した全国的にも珍しい高校として、地域との繋がりを保ちながらも固定観念に捉われずに新たな学校教育の姿を追求し、地域の希望となる学校作りを展開する。育成したい生徒像はあらゆる場面で物事を自分ごととして捉えながら必要な場で「一歩踏み出す勇気」を備えた人物である。その実現のために積極的に社会との接続を図り、体験的な学習を積み重ね、時代に即した商業教育の再定義を目指す。社会とともにウェルビーイングなあり方を体現したい。

(2) 主な事業の目的・計画

年度	事項	概要	進捗状況
3～	学外連携の強化	・社会で活躍している大人たちと接する機会をつくり、長期的な視点でのキャリア教育を行う。	・外部講師による講演会や起業家による経営塾、アパレルブランドと連携した課外活動や、映画の制作に関わるプロジェクトなど多くの機会を作り出すことができた。
3～	学校 DX 化	・ ICT 環境を整備し、学習効率の向上、教職員の業務効率化、保護者連絡の方法の改善し、学校満足度の向上に努める。	・ 全教室プロジェクター設置、校務支援システム「BLEND」の活用などにより学習効率、業務効率、生徒保護者満足度が向上した。
3～	広報活動の充実	・パンフレット等の広報ツール・オープンスクール一新および、対象中学校の地域拡大、制服のリニューアル等で生徒数増加を目指す。	・広報活動のあり方を見直した年に TV 局や新聞、ラジオなどの取材も多々あり、認知度が大きく向上した。入学者についても例年に比べ大幅に増加させることができた。令和 6 年度には 3 学年揃って 6 クラス編成を実現することができた。
4～	国際教育の推進	・進学率向上や起業家教育の推進に伴い、以前よりも国際的な学びの必要性が高まっている。 ・語学としての英語を学ぶだけではなく、異文化理解やディスポート精神を身につけるための機会を積極的に作り出す。	・国際教育推進のチームが揃い、夏季休暇中の海外研修やミュージックアウトリーチという全 3 日間の国際交流イベント、トビタテ留学ジャパンの合格者を 4 名輩出など着実に国際交流活動を活性化することができた。
5～	経営実習としての女子商マルシェの充実	・アントレプレナーシップの醸成を目指し、商業教育の集大成としての女子商マルシェのアップデートを図る	・昨年度の振り返りを元に、授業からマルシェを意識した組み立てを行うとともに、地域の企業、関係者の共通認識を固めるための協議を行なっている。

5～	学校全体としての対話を元にした研修の充実	・対話を元に学校としてのビジョンを固め、職員間、生徒・保護者、地域を巻き込みスクールポリシーの実現を目指す	・月に1回程度対話の時間を作り出すために山口覚さんにコーディネーターを依頼し、教職員、生徒、保護者を巻き込み対話による学校文化作りを行なっている。
6～	国内間留学など地域を越えた学校間交流体制の構築	・様々な価値観に触れ、自らの当たり前を見直し、広い視野の獲得や越境体験による自信を身につけることを目的に九州外の学校との交流を作り出す。	・修学旅行先で東京の女子校との交流や、京都の修学旅行生を迎え入れて学校間交流を行なった。他府県の高校とコンソーシアムを構築し、国内間留学制度の実施に向けミーティングを重ねている。
6～	教員研修の活性化	・形骸化している研修の目的をもって自らの成長が実感できる研修制度を構築する。	・東明館高校と共に工藤勇一校長を招き合同教員研修を計画している。
7～	対話の構築	・生徒だけでなく教員も対話文化を取り入れることで、自らの変容を受け入れながら主体的な生き方ができる空間を創造する。	・年間5回以上の対話の時間を作り、学年を越えるとともに保護者や地域の方々を巻き込みながら幅広い考え方に触れることを目指している。
7～	中長期的な将来ビジョンの策定	・時間はかかるが教職員、生徒、保護者、地域の方々などステークホルダーの意見を取り入れながら魅力的な5年～10年先のビジョン作りを行う。	・150人規模で未来の学校のあり方についての対話や全教員での2日間に渡るスクールポリシーについての対話などを行い、形は見えてきている状況

(3) 施設・設備の整備計画

- ・令和3年度に全教室に遮光カーテンと共にプロジェクターの設置、黒板の張り替え、学内電気LED化、感染症対策として全教室に空気清浄機の導入、第二体育館のWi-Fi環境整備、大型バス1台購入を行った。
- ・令和4年度に食堂の改装及びメディア環境の整備を行った。
- ・令和5年度に生徒用・職員用トイレ改修、全校生徒用クロムブック買い替え、HR教室のエアコン更新、大型バス1台購入を行った。
- ・令和6年度には生徒用ロッカーの買い替え、空き教室のアクティブラーニング室への改築を計画している。
- ・令和7年度には職員室の改装を行い、より働きやすく、コミュニケーションが生まれやすい空間を作ること計画している。

(4) 卒業者数、進路状況

卒業者数	就職			進学			家事手伝い	留学	未定
	学校紹介	自己就職家業	公務員	四年制大	短大	専門学校			
161	24	12	0	69	8	43	0	1	3

(5) 生徒の就職、進学状況

商業高校として就職に強いという認識は地域に定着している。また、近年大学進学率も一層高まったことにより、就職を希望する生徒たちにも多くの選択肢が行き渡り、就職、進学ともに進路に関する満足度が向上している。

大学進学者を中心に放課後に自主的に進路に向けて学習を進める生徒や、主体的に校外のイベントに参加する生徒が増加し、学校全体が活性化している。国公立大学への推薦入試の指導はメディアからも注目され、全国から学校視察が絶えない状況が続いている。

(6) 教員の採用・退職計画

年度	事 項	概 要
令和3	教職員採用（常勤講師7名） 転退職（専任1名、講師8名 計9名）	専任17名、常勤講師8名、非常勤講師11名
令和4	教職員採用（常勤講師10名） 転退職（専任3名、講師8名 計11名）	専任17名、常勤講師13名、非常勤講師8名
令和5	教職員採用（常勤講師12名） 転退職（専任2名、講師1名 計3名）	専任21名、常勤講師14名、非常勤講師4名
令和6	教職員採用（常勤講師7名）	専任常勤23名、講師14名、非常勤講師7名

(7) 今後の課題

教員の平均年齢が若いという強みをもつ一方で、業務とライフプランを両立することができる働き方の構築が求められる。また、施設の老朽化に対して計画的な修繕と、将来的な校舎建て替えを見越して財政管理を行なっていく必要がある。さらに、進学希望者の増加に伴い、推薦入試指導に長けた教員の育成も重要である。また、新たな挑戦を支える余白作りも重要であるため、日常業務である会議のあり方やプロジェクトマネジメントなどを学び直すなど、持続可能なウェルビーイングを確立するための組織的な学習も積極的に取り入れる必要がある。